

令和5(2023)年度秋学期 学修成果に関するアンケート 集計結果

〈実施状況〉

本アンケート調査は、教学IRの一貫として学生の学修成果に関する自己評価を把握し、今後の教育内容を検討する際の一つの資料とすることを主な目的としている。

令和5(2023)年度秋学期においては、卒業証書・学位記授与式において実施し、欠席者に対してはGoogleフォームにて回収した。

調査対象は、令和5(2023)年度秋学期卒業生627人、内589人から回答を得ることができ、回収率は93.9%となった。欠席者に対してGoogleフォームにて回収をしたことにより、回収率が上がったといえる。

今後は、未回答の設問や特定の選択肢のみで回答するケースが散見されることから、回答内容の制度向上についても検討を進めていく。

本アンケートは学修成果に関する学生の自己評価を把握するためのものだが、アセスメントプランに基づき、教学マネジメントを推進するため、大学全体（機関）レベル、専攻（教育課程、学位プログラム）レベル、授業科目レベルそれぞれにおいて、学生の学修成果・教育成果にかかる情報の把握・可視化に使用する。

〈集計結果〉

対象者：627人 / 回答者：589人 / 回収率：93.9%

※所属別回収率

〔地域共創学群〕

経済学：100.0%、経営学：92.4%、法学：98.6%、現代政治：100.0%

英語：91.5%、ロシア語：83.3%、歴史文化：92.9%、日本語・日本文化：92.7%

スポーツ文化：90.8%、現代教養：100.0%、リベラルアーツ：90.3%

〈設問別集計結果〉

設問はディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに関連する11問で構成し、回答選択肢はa～dの4段階に設定した。評価点は、a=4点、b=3点、c=2点、d=1点として算出した平均点である。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	全体平均
2024	3.08	2.90	2.99	3.12	3.10	3.00	3.14	3.11	3.28	3.08

※ DPの変更により、設問を変更。

設問毎の評価点では、設問4、設問5、設問7、設問8、設問9が高い数値となった。一方、設問2については評価点が2.90点となり他と比較し低い数値となった。

※ 設問別および所属別の回答状況については、「集計データ」を参照。

【設問1】（回答人数：587人）

基盤教育科目の学修を通じて、一般的な教養が身についたと思いますか。（CP2）

選択肢：a とても身についた b 身についた c 少し身についた d あまり変わらない

〈a 201人（34.2%） b 272人（46.3%） c 76人（12.9%） d 38人（6.5%）〉

aとbの回答者が80.5%となり、評価点は3.08点であった。本学は主体的に学ぶことができる人材の育成のため、それぞれの学位の基盤となる幅広い総合的教養教育を重要視しており、それらを基盤教育科目として1年次を中心に展開している。学生の自己評価は比較的高く、基盤教育の成果が表れたと思われる。

【設問2】（回答人数：589人）

基盤教育科目の学修を通じて、基礎的な語学力が身についたと思いますか。（CP2）

選択肢：a とても身についた b 身についた c 少し身についた d あまり変わらない

〈a 182人（30.9%） b 231人（39.2%） c 114人（19.4%） d 62人（10.5%）〉

aとbの回答者が70.1%、評価点は2.90点であった。全設問中最も学生の自己評価が低い数値であった。基盤教育科目では英語、ロシア語、中国語、韓国語、ドイツ語、フランス語の6言語を開講しており、段階的に学べるよう配置されている。外国語の学修は学問に対する基本的な姿勢を身につけ、コミュニケーション能力を向上させる上で重要な位置づけとなっていることから、1言語4単位（2024年度入学生は1言語8単位）の修得を卒業要件としている。実質的には1年時の必修科目となっており、卒業時の学生の評価を高めるためにも、語学教育の充実に向け、更に検討を進める必要がある。

【設問3】（回答人数：589人）

基盤教育科目の学修を通じて、社会人としての基礎知識が身についたと思いますか。

（CP2）

選択肢：a とても身についた b 身についた c 少し身についた d あまり変わらない

〈a 187人（31.7%） b 256人（43.5%） c 99人（16.8%） d 47人（8.0%）〉

aとbの回答者が75.2%、評価点は2.99点であった。基盤教育科目におけるアクティブラーニング科目、現代教養基礎科目、専攻入門科目などを通じた学修に一定の成果が見られた。今後は修得した知識が卒業後の社会で活用出来ているか、卒業生アンケートの結果等も確認し、より高い評価を得られるよう、教育内容や方法について検証を進める必要がある。

【設問4】（回答人数：589人）

専攻の学びを通じて、専門分野について理解を深め、必要な知識と技能が身についたと思いますか。

（DP1）

選択肢：a とても身についた b 身についた c 少し身についた d あまり変わらない

〈a 219人 (37.2%) b 254人 (43.1%) c 83人 (14.1%) d 33人 (5.6%)〉

【設問5】（回答対象人数：556人 回答人数：554人）

※設問4で、a・b・cのいずれかを選択した方にお聞きします。

修得した知識や技能をもとに、よりよい解決策を見いだすことができるようになったと思いますか。（DP4）

選択肢：a とても思う b 思う c 少し思う d あまり思わない

〈a 186人 (33.6%) b 247人 (44.6%) c 115人 (20.8%) d 7人 (1.3%)〉

設問4ではaとbの回答者が80.3%、評価点は3.12点と学生の自己評価は高い。各専攻の教育課程には主専攻の深い専門性を担保する科目を配置しており、基礎から応用まで段階的に学び、しっかりと専門的知識を蓄積することが出来ていると評価できる。基盤教育科目において専門分野の学修に向けた基礎を構築していることも要因の一つと考えられる。

設問5ではaとbの回答者が78.2%、評価点は3.10点となった。設問4のとおり、しっかりと専門的知識を蓄積することが出来ている学生について、少し思うも含め99%の学生が修得した知識・技能をよりよい解決策を見いだすことが出来ると感じている。

【設問6】（回答人数：579人）

自専攻の学修に関連する他分野についての知識と技能が身についたと思いますか。（DP2）

選択肢：a とても身についた b 身についた c 少し身についた d あまり変わらない

〈a 186人 (32.1%) b 238人 (41.1%) c 124人 (21.4%) d 31人 (5.4%)〉

aとbの回答者が73.2%、評価点は3.00点となり、学生の自己評価は概ね高い数値となった。本学の一学群制の学びの可能性を活かし、オリジナルの学びを設計することが出来た学生が一定数存在すると考えられる。多くの学生に、本学の多様な学びを実感してもらい、より高い評価を得られるよう、教育内容や方法について継続的な検証が必要である。

【設問7】（回答人数：579人）

必要な情報を収集し、客観的に正しく評価できるようになったと思いますか。（DP3）

選択肢：a とても思う b 思う c 少し思う d あまり変わらない

〈a 209人（36.1%） b 263人（45.4%） c 85人（14.7%） d 22人（3.8%）〉

aとbの回答者が81.5%、評価点は3.14点となった。学生の自己評価は概ね高い数値となり、評価点としては2番目に高い結果となった。より高い評価を得られるよう、継続的な教育内容や方法の検証が必要である。

【設問8】（回答人数：579人）

未知のものに挑戦し、粘り強くやりぬくことができるようになったと思いますか。（DP5）

選択肢：a とても思う b 思う c 少し思う d あまり思わない

〈a 214人（37.0%） b 248人（42.8%） c 86人（14.9%） d 31人（5.4%）〉

aとbの回答者が79.8%、評価点は3.11点となり、学生の自己評価は高い数値となった。課題解決（PBL）型授業など、未知の問題と向き合う教育内容に一定の満足度が得られていると考えられる。今後はアセスメントテストの結果等も確認し、より高い評価を得られるよう、教育内容や方法について検証を進める必要がある。

【設問9】（回答人数：579人）

他者を尊重し、多様な価値を認めることができるようになったと思いますか。（DP6）

選択肢：a とても思う b 思う c 少し思う d あまり思わない

〈a 267人（46.1%） b 232人（40.1%） c 58人（10.0%） d 22人（3.8%）〉

aとbの回答者が86.2%、評価点は3.28点となり、学生の自己評価は概ね高い数値となり、評価点としては1番に高い結果となった。多様性を学び、他者との関わりを意識、経験できるカリキュラムに対する満足度も高いものと考えられる。今後はアセスメントテストの結果等も確認し、より高い評価を得られるよう、継続的な教育内容や方法の検証が必要である。

〈参考〉

「学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」

建学の精神「生気あふれる開拓者精神」のもと、「地域共創」の理念を体現し、教育目標に謳われる「生気に溢れ、知性豊かな、信頼される人間」に成長し、以下に掲げる資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

- DP1：専門分野について理解を深め、必要な知識と技能を身につけている
- DP2：関連する分野についての知識と技能を身につけている
- DP3：必要な情報を収集し、客観的に正しく評価できる
- DP4：修得した知識や技能をもとに、よりよい解決策を見いだすことができる
- DP5：未知のものに挑戦し、粘り強くやりぬくことができる
- DP6：他者を尊重し、多様な価値を認めることができる

「教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)」

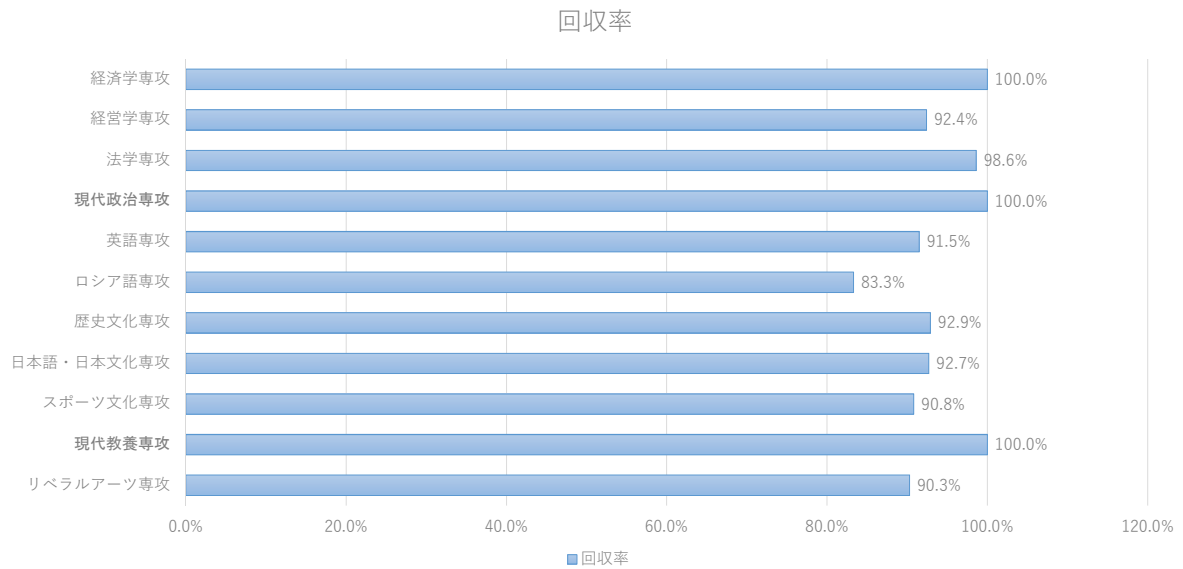
学位授与の方針を踏まえ、自由な学びを通じて主体性を育み、総合的な教養を涵養するために、以下の方針に基づき教育課程を編成します。

なお、単位認定にあたっては成績評価基準に基づく厳格な評価を行います。

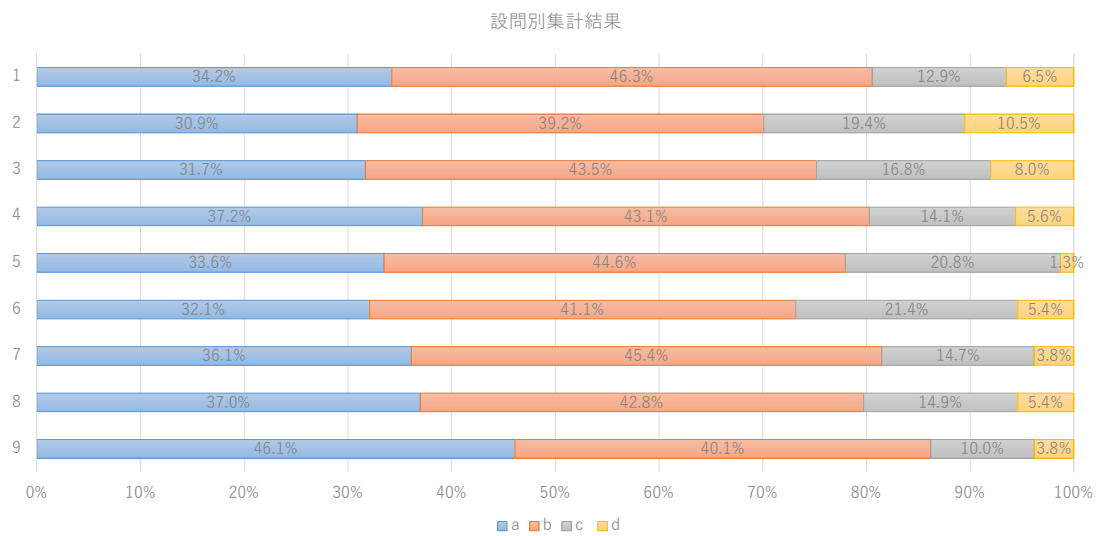
- CP1：全学共通の基盤教育科目と全学に開放された専門科目を設置し、多様な学びを提供します。
- CP2：基盤教育科目では、豊かな教養とグローバル世界に対応できる語学力、社会人としての基礎知識を身につけるための科目を配置します。
- CP3：専門科目では、主専攻の深い専門性を担保する科目を配置すると共に、副専攻をも視野に入れた専攻の枠にとらわれない科目群を提供します。
- CP4：地域を共に創造する「地域共創」の理念を、自ら考え行動し体験知として身につけるため、アクティブラーニングを重視します。

集計結果 (グラフ)

1. 回収率

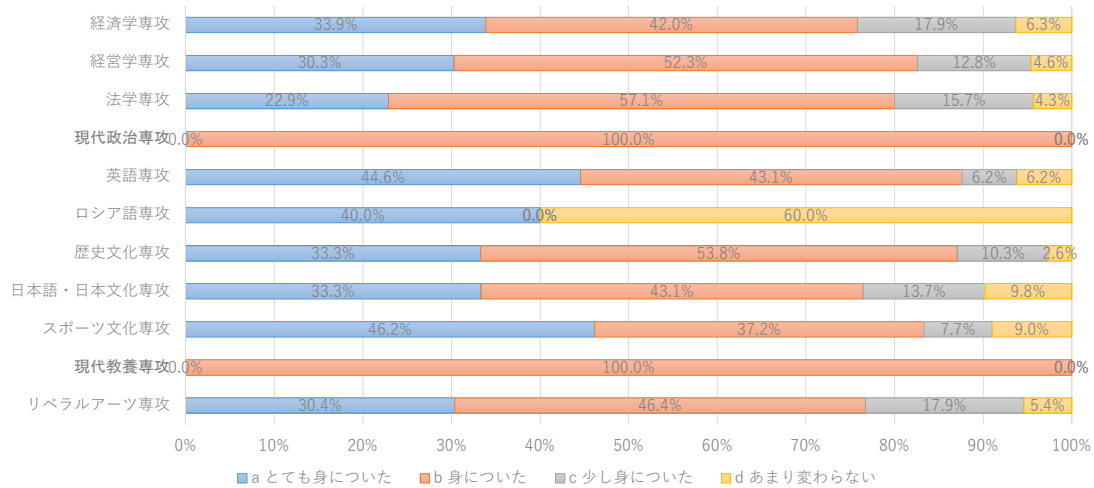


2. 集計結果

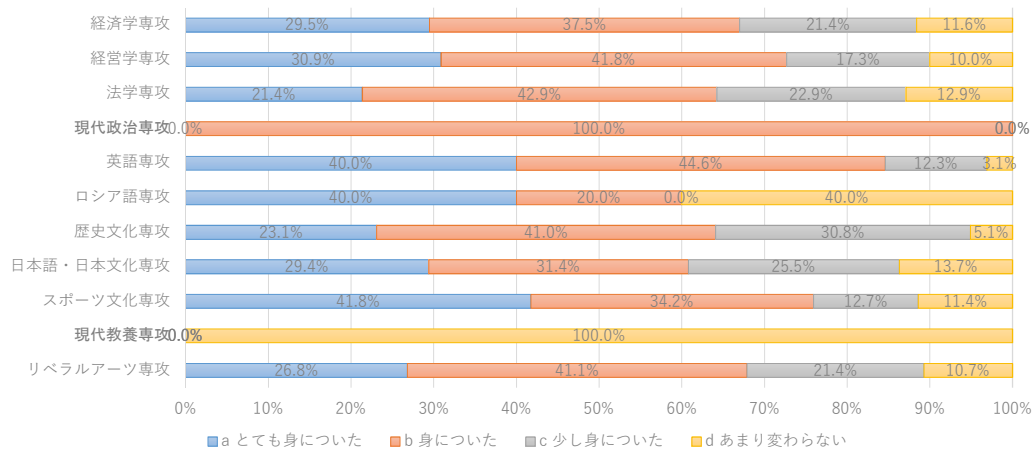


2. 集計結果（1）設問別

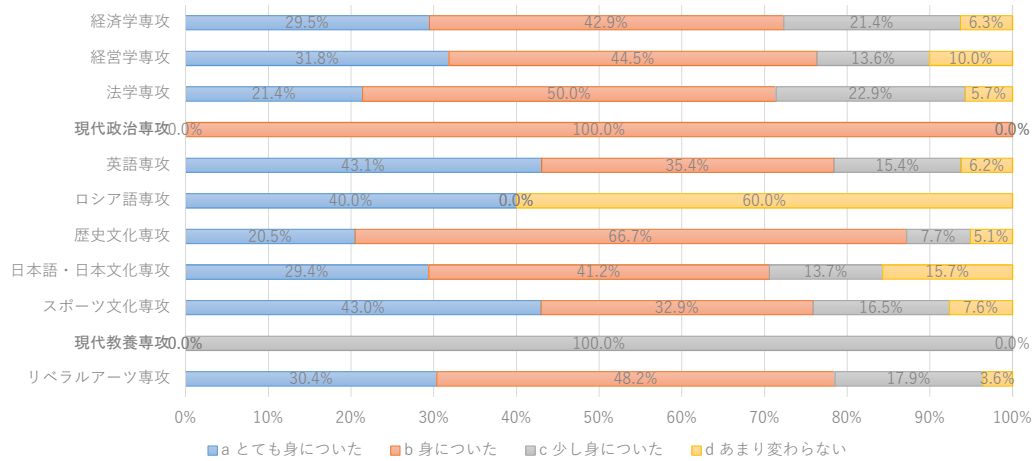
設問1 基盤教育科目の学修を通じて、一般的な教養が身についたと思いますか。（CP2）



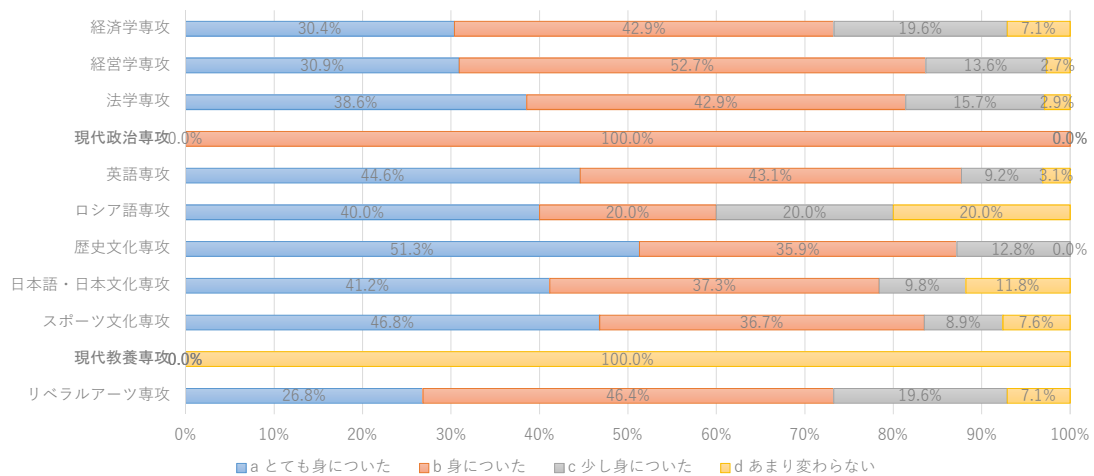
設問2 基盤教育科目の学修を通じて、基礎的な語学力が身についたと思いますか。（CP2）



設問3 基盤教育科目の学修を通じて、社会人としての基礎知識が身についたと思いますか。
(CP2)

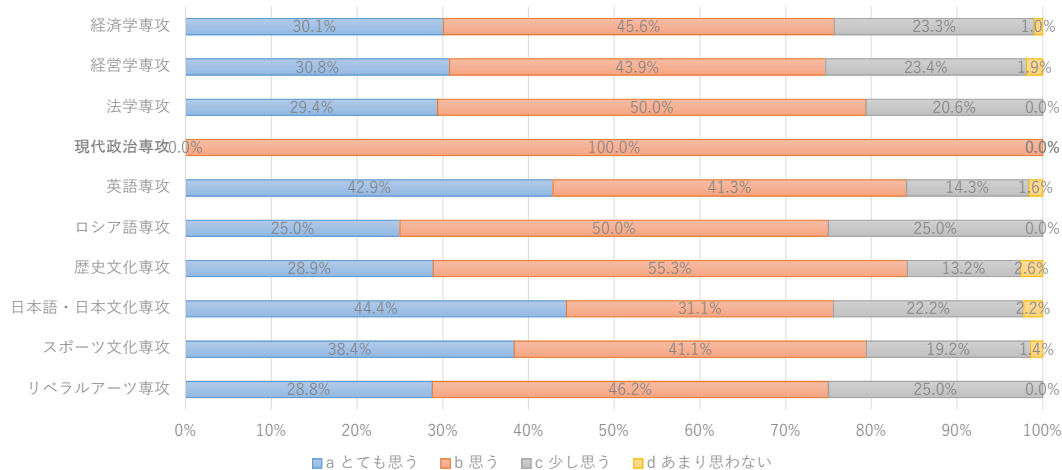


設問4 専攻の学びを通じて、専門分野について理解を深め、必要な知識と技能が身についたと思いますか。(DP1)

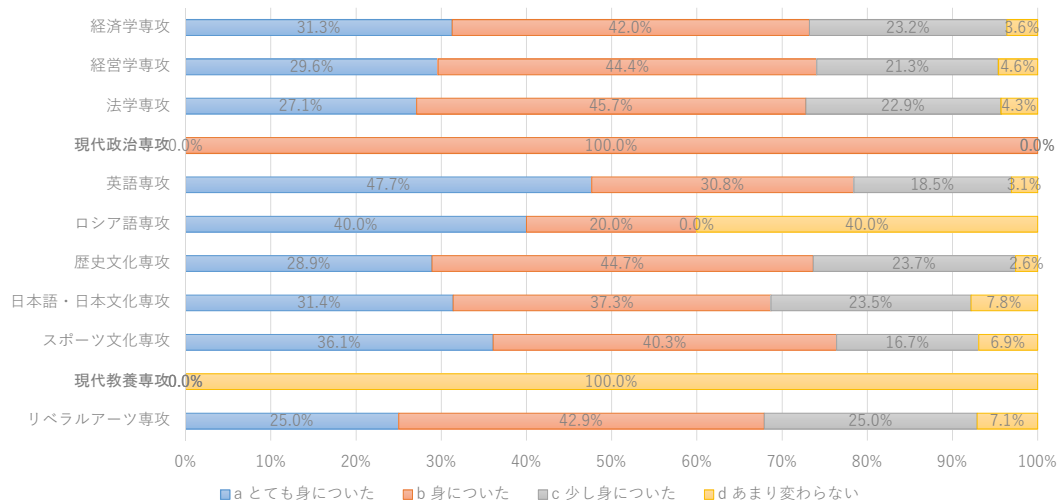


※設問4で a・b・c のいずれかを選択した方にお聞きします。

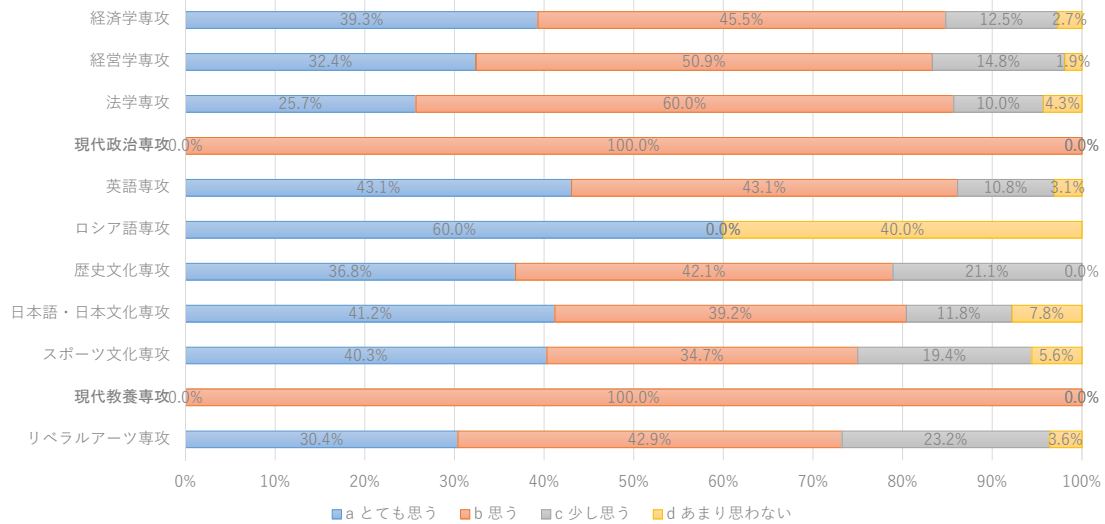
設問5 修得した知識や技能をもとに、よりよい解決策を見いだすことができるようになったと思
いますか。(DP4)



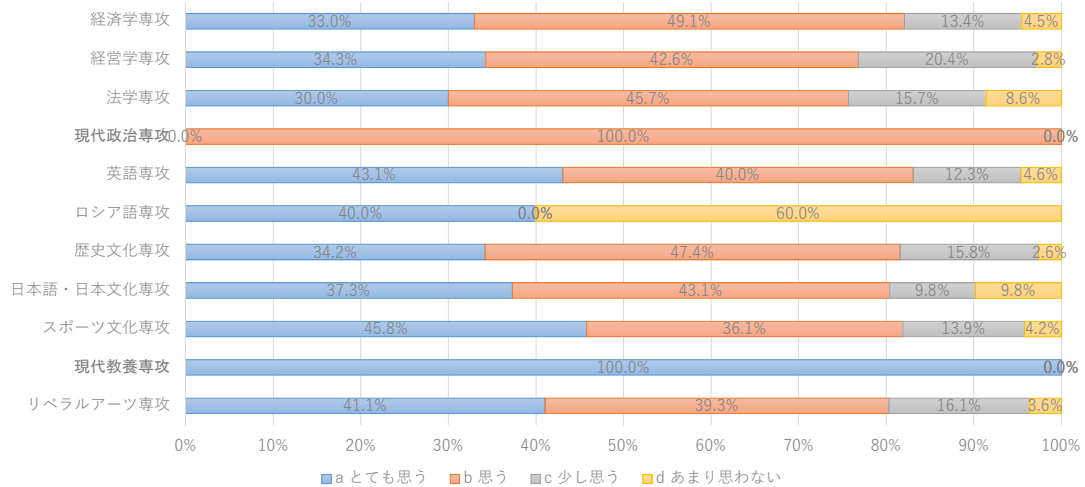
設問6 自専攻の学修に関連する他分野についての知識と技能が身についたと思いますか。(DP2)



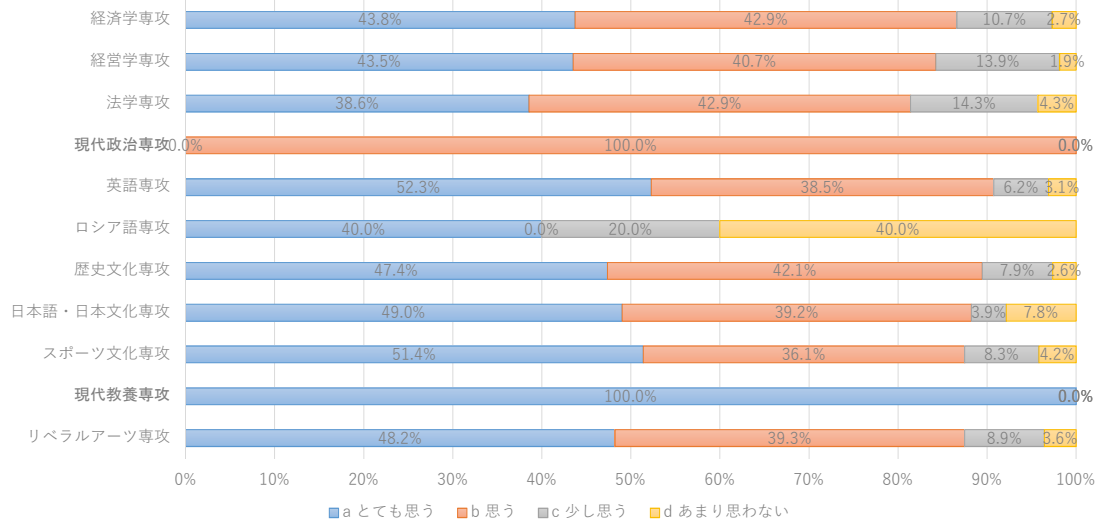
設問7 必要な情報を収集し、客観的に正しく評価できるようになったと思いますか。(DP3)



設問8 未知のものに挑戦し、粘り強くやりぬくことができるようになったと思いますか。(DP5)

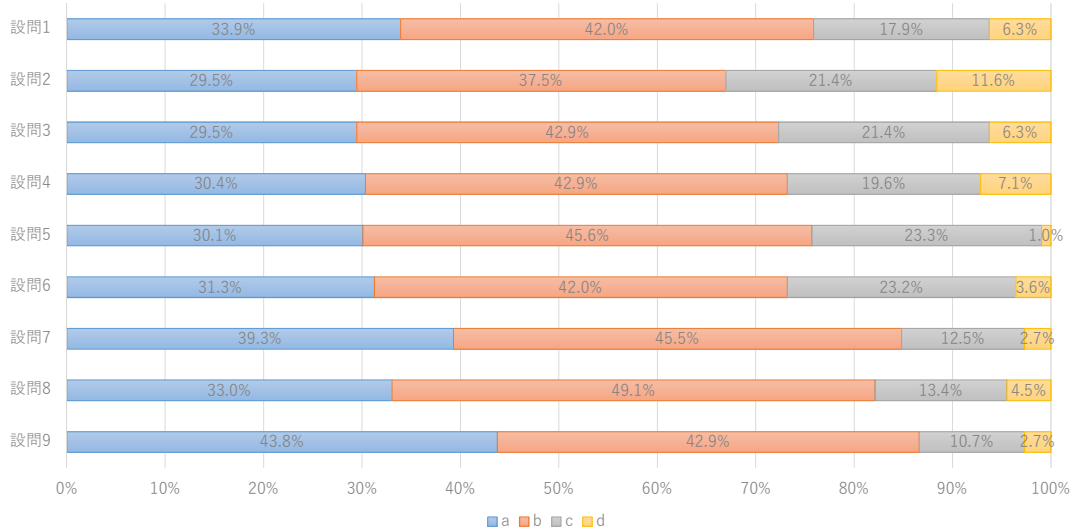


設問9 他者を尊重し、多様な価値を認めることができるようになったと思いますか。(DP6)

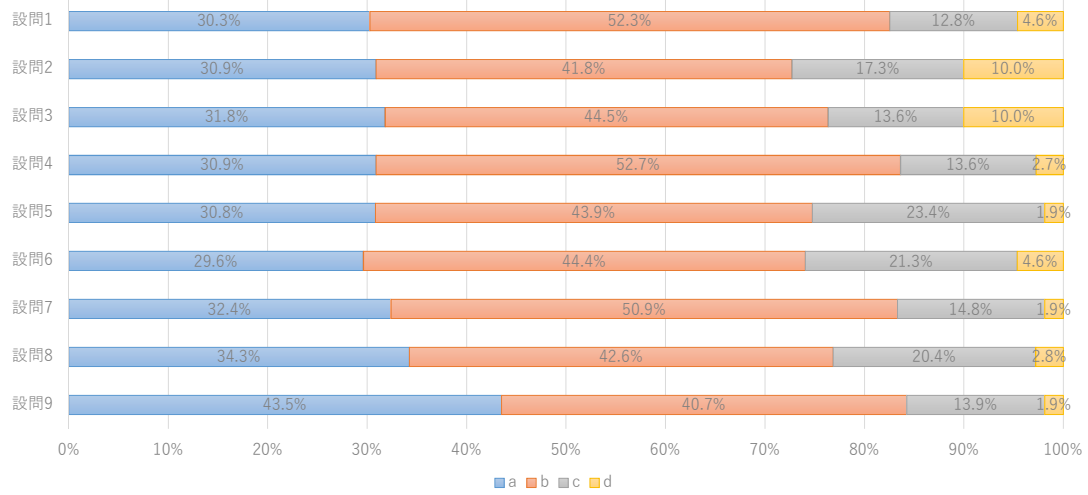


(2) 専攻別

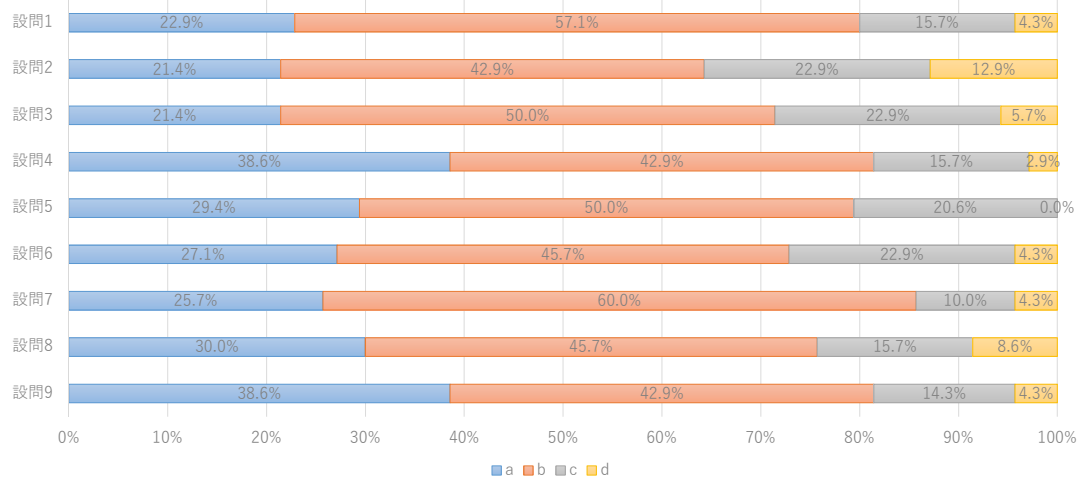
経済学専攻



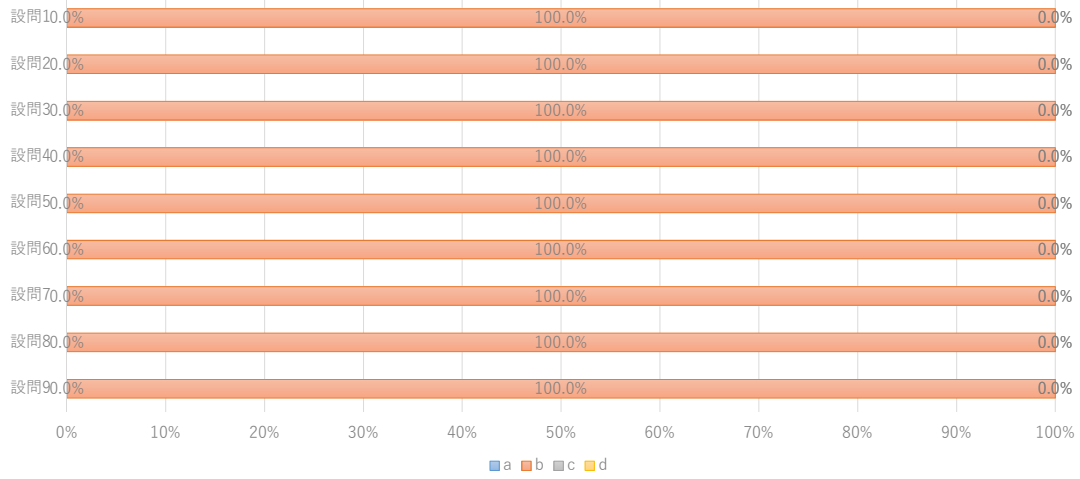
経営学専攻



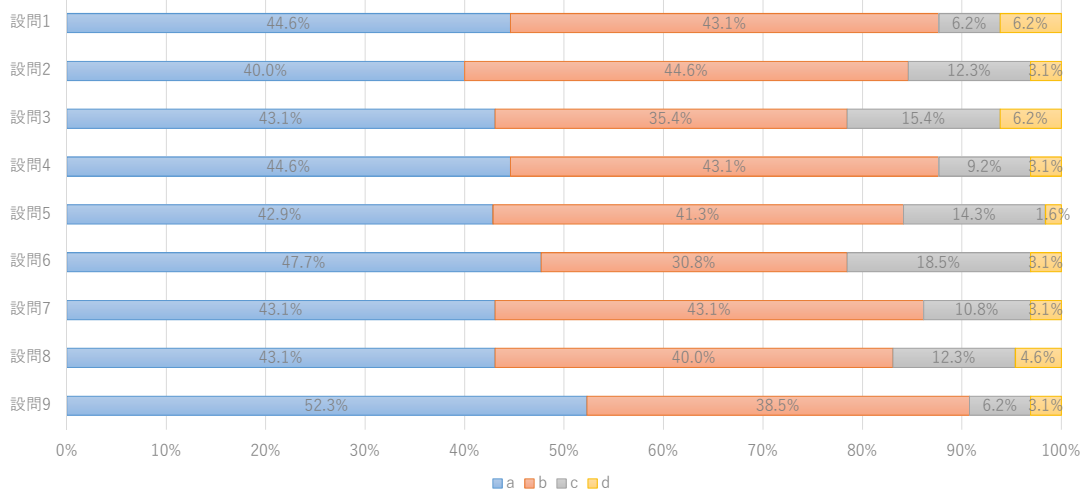
法学専攻



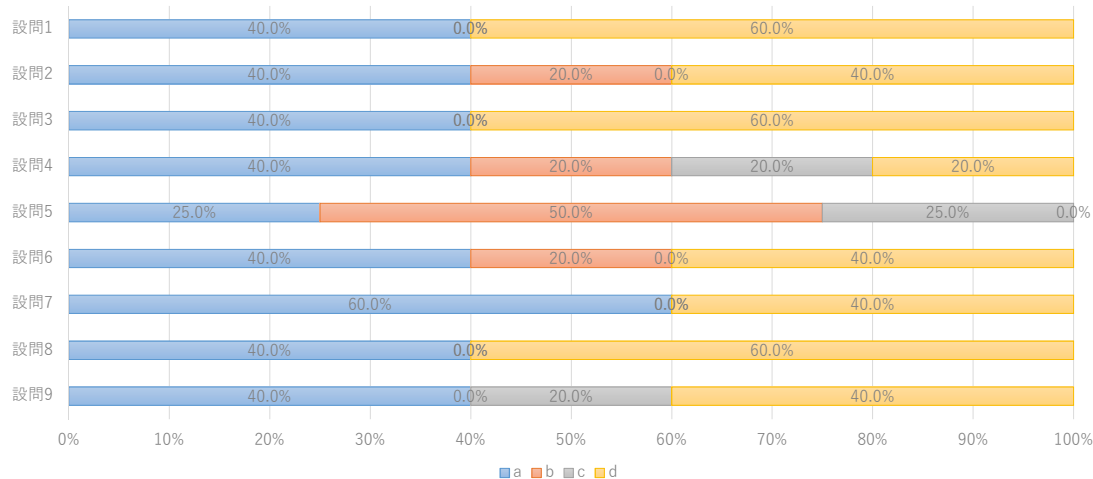
現代政治専攻



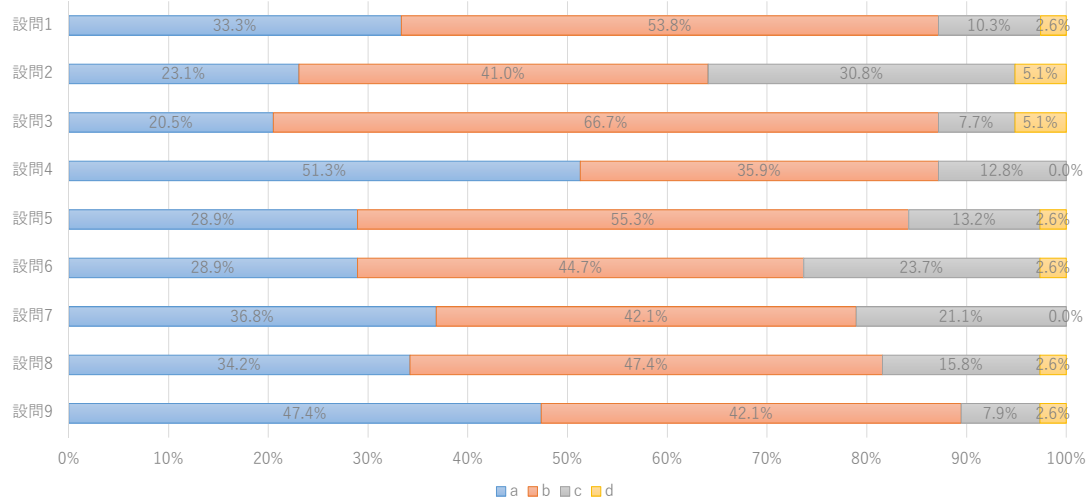
英語専攻



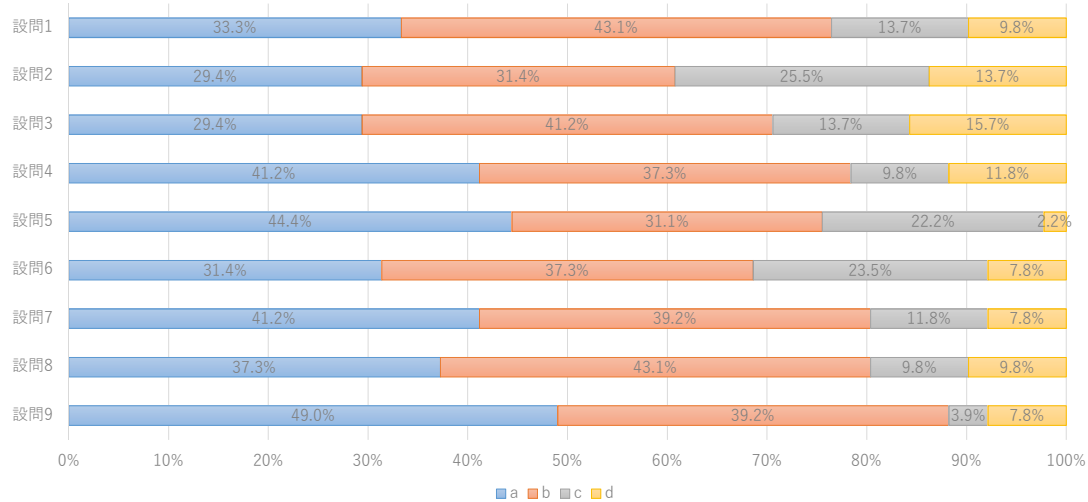
ロシア語専攻



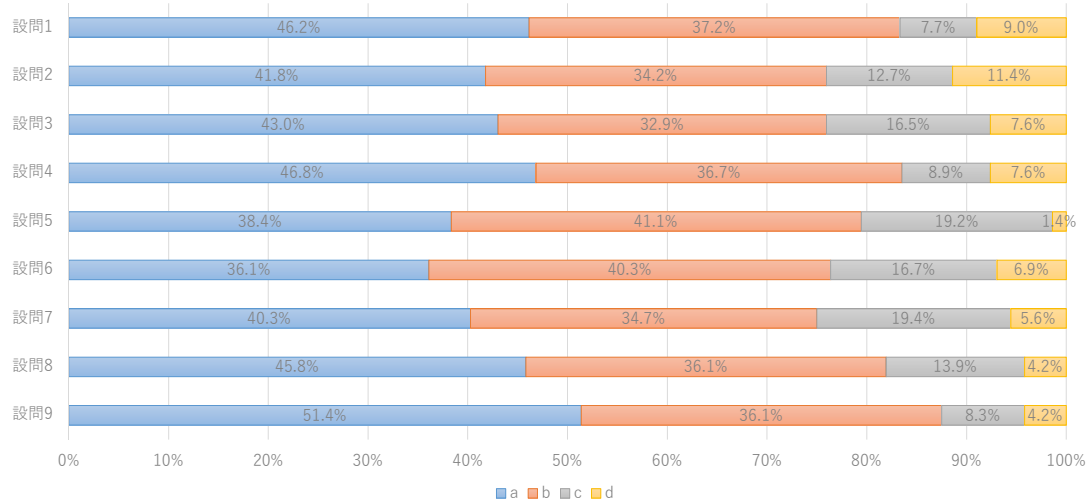
歴史文化専攻



日本語・日本文化専攻



スポーツ文化専攻



リベラルアーツ専攻

